

黒部市役所庁舎跡地活用検討委員会（第2回）会議要旨

1 と き 平成 26 年 8 月 25 日（月）13 時 30 分～

2 と ころ 黒部市民会館 102 会議室

3 出席者（委員及び事務局）

●委員

No.	団 体 名	役 職	氏 名
1	黒部市行政改革推進市民懇話会	副 会 長	浦 崎 滋
2	黒部市自治振興会連絡協議会	副 会 長	岩 井 憲 一
3	黒部市自治振興会連絡協議会	監 事	山 本 秀 治
4	黒部商工会議所	副 会 頭	植 木 眞 人
5	黒部青年会議所	理 事 長	三 井 陽 一 郎
6	三日市商工振興会	会 長	浦 田 隆 夫
7	黒部まちづくり協議会	副 会 長	中 野 隆 志
8	くろべ女性団体連絡協議会	会 長	牧 野 和 子
9	黒部市公民館連絡協議会	会 員	上 田 洋 一
10	公募委員		堀 内 國 春
11	黒部市	副 市 長	中 谷 延 之

●事務局

No.	役 職	氏 名
1	総務企画部長	柳 田 守
2	総務企画部総務課長	長 田 行 正
3	総務企画部総務課長補佐総務管理係長	橋 本 正 則
4	総務企画部総務課長補佐行政改革推進係長	中 湊 栄 治
5	総務企画部総務課主査	西 田 国 司
6	総務企画部総務課主事	吉 松 繁 里

4 次 第

(1) 開 会

(2) 委員長あいさつ

(3) 協議事項

① 中心市街地における黒部庁舎跡地の活用視点・活用形態・活用手法の検討について

② その他

(4) そ の 他

(5) 閉 会

5 会議概要

(1) 開 会

(2) 委員長あいさつ

■委員長挨拶要旨

事務局から、前回の会議要旨及び今回の会議資料を送付していただき、改めてこれを読み直した。前回の会議では、話が、多少重複したり、前後したりしたが、会議では当然のことだと思う。

しかし、会議で発言いただいた内容は、かなり大事な内容であり、本質的な問題点等が出たのではないかと思う。

最終的には、具体的な庁舎跡地の活用方法を複数、市に提出する必要がある。前回、第1回会議では、若い人が希望を持てる施設や、若い人からお年寄り、子供にいたるまでのあらゆる人が利用できる施設、黒部市の中心市街地の活性化に繋がるような施設が必要等のご意見をいただいた。

ご意見を異いただいたそれぞれの内容が、この現庁舎跡地の施設に必要なことと思うが、あまり欲張っても拡散してしまうので、今後絞っていかねばならないと思う。

本日は、第2回目の会議である。委員各位には、前回話し足りなかったこともあると思う。本日は、前回意見をもとに今回の資料をまとめているので、これをある一定の方向性を持っていければと考えている。また、どういった新しい施設を作ったらよいか、その方向性を見出せたらいいと考えているので、よろしく願いたい。

(3) 協議事項

① 中心市街地における黒部庁舎跡地の活用視点・活用形態・活用手法の検討について

新庁舎周辺における既存計画と方向性

(新庁舎建設基本構想から)

黒部市総合振興計画	黒部市都市計画マスタープラン
<p>【商業振興の視点】</p> <ul style="list-style-type: none">○商業活動が活発な魅力と賑わいのあるまち <p>【観光振興の視点】</p> <ul style="list-style-type: none">○山、川、海の恵みを活かした国際観光盛んなまち <p>【道路整備の視点】</p> <ul style="list-style-type: none">○安全、安心、快適なまちづくりを進めるまち	<p>【地域（中心市街地）の将来像】</p> <ul style="list-style-type: none">○充実した都市サービスが受けられる、歩いて暮らせる安心・安全なまち <p>【中心市街地のまちづくり方針】</p> <ul style="list-style-type: none">○新川の中心地としてふさわしい賑わいのある魅力的なまちの整備○子供から高齢者まで安心して暮らせるまちの整備○都市間・地域間の連携を強化する交通ネットワークの形成

以上から新庁舎周辺が目指すべき方向性を以下のとおり整理している。

- ① 黒部市の「顔」となる拠点地区の形成
- ② 「歩いて暮らせるまちづくり」を体現する「生活空間」の形成
- ③ 計画地周辺の既存公共交通の有効利用と新たな交通手段の構築
- ④ 計画地周辺への道路網の整備

新庁舎周辺における既存計画と方向性を踏まえて黒部庁舎の跡地を検討していくには「誰のために」・「何のために」・「何を作るのか」を明確にして検討すべき

誰のために

- 第1回目の意見から
- 全ての市民が誰でも（幼児から高齢者・学生・勤め人・障害者）
 - これからの黒部を担う若い世代の声を聴いて、若者に賛同を

何のために

- 第1回目の意見から
- 若者に愛着をもってもらうために
 - 中心市街地の活性化につなげるために
 - まちづくり、ひとづくりのために
 - 地域の活性化のために
 - 現庁舎への愛着と変わらないように

何を作るのか

- 第1回目の意見から
- まずはしっかりとしたコンセプトを持つことが大事

コンセプト(concept)とは概念または構想のこと
【実現に向けた考えを組み立てる・組み立てた考えの内容のこと】

第1回検討会からみるコンセプト

- 中心市街地の活性化が図れる場所(施設)
- ランニングコストがかからず、シンプルで利便性の高い施設
- 多目的な利用ができる場所(施設)
- 高齢者が気楽に集まれる場所(施設)
- 施設に気軽に立ち寄り、話し合いができる場所(施設)
- まちづくり・ひとづくりの中心として役立つ場所(施設)
- 誰もが自由に気軽に利用でき、出会いの豊かな場所(施設)

第1回検討会からみるコンセプト

- 地域の活性化が図れる場所(施設)
- 住む人・訪れる人のシンボルとなる場所(施設)
- 利用する人が使いやすい場所(施設)
- 広場と公園を備えた憩いの場所(施設)
- 夢に出会い、夢をかなえる場所(施設)
- 世代を超えて、人と人がつながる場所(施設)
- 黒部に対する愛着が芽生え、育てられる場所(施設)



検討委員会が提案するコンセプトは！！(本日の最重要協議事項です)

黒部庁舎周辺公共施設一覧

施設名	建築年度	延床面積(m ²)	H24年度利用者数
市民会館	S41	2,911	61,446人 (利用件数:990件)
働く婦人の家	S52	608	14,545人 (利用件数:1,129件)
三日市公民館	S52	1,321	28,842人
東部児童センター	S60	374	21,412人
勤労者体育センター	S61	1,041	16,590人 (利用件数:2,110件)
図書館	S47	1,124	39,050人 (※貸出延利用者数)
国際文化センター	H7	9,010	139,039人 (利用件数:3,072件)

※資料は提出資料より抜粋

■事務局説明要旨

「新庁舎周辺による既存計画と方向性」については、第1回会議で説明した通り、市の上位計画として「総合振興計画」と「都市計画マスタープラン」がある。

まず、市総合振興計画では、「商業振興の視点」で、「商業活動が活発な魅力とにぎわいのあるまち」、「観光振興の視点」で、「山・川・海の恵みを活かした国際観光盛んなまち」、「道路整備の視点」で、「安全・安心・快適な道づくりを進めるまち」の3点がある。

また、市都市計画マスタープランでは、「地域（中心市街地）の将来像」として、「充実した都市サービスが受けられる、歩いて暮らせる、安心・安全なまち」、「中心市街地のまちづくり方針」として、「新川の中心地としてふさわしい賑わいのある魅力的なまちの整備」、「子供から高齢者まで安心して暮らせるまちの整備」、「都市間、地域間の連携を強化する交通ネットワークの形成」の3点がある。

この2つの計画を踏まえ、新庁舎周辺が目指すべき方向性として、新庁舎建設基本構想では、「黒部市の顔となる拠点地区の形成」、「歩いて暮らせるまちづくりを体現する生活空間の形成」、「計画地周辺の既存公共交通の有効利用と新たな交通手段の構築」、「計画地周辺道路網の整備」の4点を示している。

前回の会議では、新庁舎周辺における既存計画と方向性を踏まえ、黒部庁舎の跡地を検討していくには、「誰のために・何のために・何を作るのか」を明確にして、検討すべきとの意見であった。

今回の資料は、これを整理したものである。まず、「誰のために」では、第1回会議で、「すべての市民が誰でも」という意見が多くあった。これは、幼児から高齢者、学生、勤め人、障害者等ということであった。また、これからの黒部市を担う若い世代の声を聞いて、若者に賛同を得られるようにとの意見もあった。

次に、「何のために」は、第1回会議では、「若者に愛着を持ってもらうために」、「中心市街地の活性化につなげるために」、「まちづくり・人づくりのために、地域の活性化のために」、「現庁舎への愛着と変わらないために」との意見をいただいた。

次に、「何を作るのか」では、すぐに具体的な内容を議論せず、まずしっかりとしたコンセプトを持つことが大事ではということであった。

そのコンセプトについて、前回会議での意見を参考に整理したものを資料に記載している。例えば、「中心市街地の活性化が図れる場所や施設であること」、「ランニングコストがかからずシンプルで利便性の高い施設であること」、「多目的な利用ができる場所、施設であること」、「高齢者が気軽に集まることができる場所、施設であること」、「気軽に立ち寄り、話し合いができる場所であり施設であること」、「まちづくり・人づくりの中心として役立つ場所、施設であること」、「誰もが自由に気軽に利用でき、出会いの豊かな場所、施設」ということであった。その他、「地域の活性化が図れる場所、施設であること」、「住む人・訪れる人のシンボルとなる場所、施設であること」、「利用する人が使いやすい場所、施設であること」、「広場と公園を備えた憩いの場所、施設であること」、「夢に会い夢をかなえるような場所、施設であること」、「世代を超えて人と人とが出会える場所、施設であること」、「黒部に対する愛着が芽生え育てることができる場所、施設であること」等々の多くの意見をいただいた。

本日はこれらの意見を参考に、検討委員会が提案するコンセプトを協議していただきたいと考えている。

■委員発言要旨

OE委員 コンセプトを決めることはよいと思うが、その上にビジョンがあり、コンセプトや実施のアイディアに繋がっていけばよいと思う。例えば、庁舎跡地をどういう場所にしたいかを夢物語でもいいので、あればよいと思う。それを実現していくためにどういうコンセプトで進めていくかを決めれば、もう少し流れがスムーズになると思う。

もうひとつ思ったのは、この全体の流れの中に市民からの意見を聞く必要があるのではないかと考えている。この委員会で決めたことを市長に提出してそれで終わりではいけないと思う。誰のために、何のためにといったときに、この検討委員会が出した案が3案あるとすれば、それに対して市民の意向はこの案が多かった、これが少なかったということを含めて提案した方が、市民にとっても、自分たちが選んだ施設との認識になると思う。今のところ市民の巻き込みがあまり見られないことに課題を感じている。

検討委員会が、市民の声を代表していると思いたいが、まず、この委員会でしっかりとコンセプトを決めて、そのコンセプトに対してどれくらい市民の意向が強いかを確認するタイミングが大事ではないかと思う。プロセスの段階で市民を巻き込んだ方がよいと思う。

市民への巻き込み方として、ホームページ等は、見る人に興味がないと見ない。そのため、例えば多くの人が利用するショッピングセンターや公共施設にコンセプトを掲示して投票してもらうなど、立ち寄った人が気軽に参加できるシステムにしてはどうかと思う。ホームページは、確かに理由づけになると思うが、自分たちがアプローチしたい部分にたどり着かないと思う。自分としては、高校生や小学生などの意見も知りたい。

OB委員 今回、事務局から前回の意見をもとにコンセプトを提示していただいたが、検討委員は、各団体等を代表して出席している。私は、所属する会議等でいただいた意見をもとに発言している。各委員は、それぞれの団体を代表して出席しており、まず、その団会で議論していただき、それをまとめていただくことが大事ではないかと思う。

また、小学生から高校生までの意見を聞くことも大事だと思うが、まずは、各団体ごとで議論いただいたり、市民の意見等を聞いていただいて、委員会に参加して議論することが大事ではないか。

O委員長 E委員の意見を聞いて、小学生、中学生はどうかと思うが、高校生、例えば桜井高校生に庁舎跡地の利活用について聞いてみるのもよいのではないかと個人的には思った。

ただし、我々は各団体を代表して委員会に出席しているので、自分の意見と同時に、関係者の意見も聞いていただく作業をお願いしたい。

OG委員 黒部市は、来年の新幹線の開通に向けて大きな希望がある。また、これまで市の顔であった市役所跡地の再開発も大事になると思う。このため、庁舎跡地の利活用は、将来に向けて大変必要と考えている。

市役所跡地の利活用は、総合振興計画と都市計画マスタープランの上位計画に準じた形で具体的な形にしていくと考えたとき、歩いて安心して等のキーワードを実現するための議論が必要と考える。このため、検討委員会では従来からそこに住む人に対して跡地をどうしていくかがテーマなると思うので、若い人の意見も聞ければよいが、まずはそこに住む人の意見を勘案したうえで、10年、20年先に必要と思われる施設等を提案できればと思っている。

OH委員 検討にあたっては理想と現実があると思う。理想が高いことはよいと思うが、なかなか理想どうりにはいかないと思う。現実的なことを考えると、三日市に住む者としては、まずは住みやすく、使いやすいものが出来ればよいと思う。

検討にあたっては、場所や面積に制限があることから、現実的な内容で協議できればと考えている。

〇A委員 市役所庁舎が市の象徴的な建物であるならば、跡地の利活用については、私は中心市街地の活性化を念頭に考えていくべきと思う。そこに、歩いて通えるとか、駐車場を広くして利用しやすくとか、いろいろな考え方があると思うが、そこに何をやるかは、そこに一番人が集まりやすく、活性化するものを作っていけばよいと個人的には思っており、今後議論していきたい。

現在、私が所属する行政改革推進市民懇話会では、広域的な建物、施設を今後どうするかを検討している。懇話会では、施設の集約、廃止、施設の建設等の議論があるが、懇話会でアンケートが実施されており、いろんな意見が記載されていた。市民の意見として必要であれば、このアンケート等を使いながら意見を集約していくことも必要ではないかと考えている。

いずれにせよ、個人的には中心市街地の活性化をコンセプトに考えていけばよいと思っている。

〇F委員 個人的には中心市街地の活性化が大事と思っている。検討にあたっては、庁舎跡地だけを考えず、中心市街地の活性化を念頭に考えるべきと思う。中心市街地の活性化では、商店街の活性化を考えがちになるが、そうではなく、市全体のことを総合的に考えて提案していけばよいと思う。

〇C委員 今の三日市は、昔の三日市と比べると、まちがものすごく寂れてきたと思う。そのことから、中心市街地の活性化は重要だと思っている。また、今後は、公共交通機関の利用等を想定し、費用はかかると思うが、なるべく機能を集中した施設を作った方がよいと思う。

〇I委員 まちづくりの原点は、ひとづくりだと思う。このため、跡地の利活用も、ひとづくりができる施設が大事だと思う。

例えば、青少年は、あまり図書館を利用しないと言われるが、電子図書や試験参考書、CD等を充実させ、青少年が興味あるものを備えて青少年のひとづくりに役立てることも考えられる。これらのことから、幼児から高齢者までの不特定多数、しかも利用者が繰り返し利用できる施設を検討していくことが必要と考える。

〇D委員 先ほどから中心市街地活性化の話がでてきているが、どう活性化させるかの方向性が見えていない。市役所新庁舎が旧三日市小学校跡地に建つ。また、メルシーが10月にリニューアルする。さらにマックスバリューがオープンしたことにより、人の流れ、車の流れがこれまでと全然違ってくる。

私は、大町からJR黒部駅までの道は、これから横の道になると持論として前々から言っている。

個人的には、具体的に何をやるかの案はあるが、委員各人が何をここに作ればいいのかを意見を述べ、いろいろ賛否があると思うが、意見を沢山出し合い、まとめていくのも1つの手法かと思っている。

また、事務局から、ある程度の予算規模の提示があってもよいと思う。先月、長野県の塩尻市に行ってきた。そこに、公民館、図書館が入った5階建ての複合施設があり、多くの市民が利用していた。事務局にパンフレットを渡しておいたが、上層階からは長野の山並みが見えた。黒部庁舎跡地からも立山連峰がしっかり見えるのではないかなと思う。さらに、行政が、私どもの提案に賛同していただけるか、その辺の覚悟を聞かないといけないと思っている。

〇委員長 コラーレ前に大型店が進出してきたが、一つの建物が経済活動に与える影響は大きい。隣の魚津市も商店街はさびしく、8号線沿いに大型店等が立ち並んでいる。黒部市も、大町通りが今後どうなるのか心配である。先ほど、E委員の発言でビジョンという言葉があった。私は、コンセプトよりビジョンという言葉が好きである。

また、H委員が言われた現実を見据えることも大事だと思う。抽象的なことを議論することも大事であるが、現実問題としてD委員が言われた、どれだけの予算をかけて事業を行うかを踏まえて、次回以降、協議していくことが必要と考える。老人と子供を大事にしない国はダメというのが自分の持論である。もちろん若者に夢を与えることも大事である。しかしながら、まず老人とこどもを大事にする。それは、福祉とは違う意味で、年寄りが安心してくらせるまち、そして、子供が元気なまち。そういうことが大町通りにほしい。あわせて、若者に魅力的なまちになるためのビジョンがほしいと思う。

私は、黒部庁舎跡地に求められるものは、「文化力」だと思う。例えば黒部市には映画館がない。かつて、三日市には幾つもの映画館があり、自分たちは映画をみて育った。また、図書館との意見もあったが、今の図書館は、昔とは違い、ただ本を貸し出すだけではない新しい機能が求められている。富山市では、旧大和跡地に図書館と美術館と銀行が一緒になった建物を建設する。黒部市でもそういった大胆な発想が必要だと思う。私は、大町通りを中心とした中心市街地の活性化について文化という形で役立てればと考えている。また、そういうビジョンの施設がほしいと考えている。

○J委員 委員として個人的な考え方も交えて発言させていただく。この市役所庁舎跡地に施設等作る場合の方法論はいくつかあると思うが、なるべく多くの方の話を聞き、その中で絞り込んでいくのも一つの方法論だと思う。予算について発言された委員もいたが、市としては、まずは皆さんの考え方を知って、それを絞り込んだ過程で市の財政力に依拠してどのようなものができるか判断し、いずれかの段階で皆さんに示すことができるのではないかと考えている。皆さんの考えを全て採用するには、多額の費用がかかると思う。しかしながら市には、それをすべて実現できる財政力がないのも事実である。そういった中で、なるべく多くの方の意見を集約して、この施設を建設していきたいと考えている。

○事務局 全委員の発言をお聞きした。E委員からは、議論の入り口でいろいろな人の話をきく。特に、小学生から高校生の若者の意見を聞くべきという話であった。E委員の意見も大事だと思っているが、B委員が言われたとおり、委員の皆さん方は、それぞれの団体を代表しており、それぞれの団体の中でも議論されていると思う。もし、多くの市民の意見が必要であれば、先ほどA委員が言われたとおり、行革の関係で、公共施設における市民アンケートを20歳代から70歳代を対象に行っている。その中で各種自由意見を沢山のの方に記入していただいた。本日、庁舎跡地の利用に関して近い意見を抜粋し、年代の若い順に整理した資料を作成した。必要があれば、後ほど配付するので参考にさせていただきたい。この資料等で足りないのであれば、先ほど委員長が言われたとおり、例えば桜井高校生から意見を聞くことも可能ではある。そういうことを踏まえて、どこまで必要かをこの委員会で協議いただき、指示をいただきたい。また、G委員の住む人の考えを重視したとか、H委員の現実的な議論を進めてほしい等の意見をいただいたが、中心市街地の活性化や人が集まり、人づくり等、かなり絞られてきていると思う。D委員のようにきちんと予算を明記しなければ、どう議論を進めていけばわからないという意見もあったが、具体的な進め方やどのようなものが求められているかは、わかってきた。また、これから議論が進む中で、アンケート等を参考にしながら、ぜひ具体的な議論に入っただけであればと考えている。若者の意見を聞くことも別途可能だと思っており、11人の委員の意見、内容にそった形で進めることができると考えている。

○委員長 1回目、2回目の委員会ではいろいろな意見が出てよいと思う。意見を一つの方向に取りまとめていく途中なので、多少話が行き来してもよいと思う。そういう中で議論が深まることがあると思うので、急いで結論を出す必要はないと思う。跡地の議論の時に、市民が希望をもてる、期待感を

持てる、若者にとっては未来を感じられる、高齢者にやさしく、中心市街のみなさんにとっては活気を呼び戻せる等、委員それぞれの思いがあると思うので、この後、委員からは、こういう施設という思いがあれば意見を聞きたい。

OC委員 私は、図書館を中心とした施設がよいと思う。これにより、利用者が多く集まり中心街を活性化できるのではないかなと思う。また、現在、広島市では豪雨による甚大な被害が発生しているが、市内でも高橋川、黒瀬川等中小の河川がたくさんある。そういうことで、万が一の激しい雨が降った場合の河川氾濫等に備えた避難場所も必要ではと思う。

OH委員 私も図書館がよいと思う。その図書館の中に多目的ホールや男女・年齢問わず気軽に立ち寄れる場所があるとよいと思う。また、広場が併設されていればよいと思う。

OF委員 委員長が「文化」と言われたが、元々は、現在の市役所庁舎場所に、尋常高等小学校があった。それが、町役場になり、今の市役所庁舎になった歴史がある。この歴史的なことを考えると、学びの場的な施設が出来ればと思う。商店街の立場からすると具体的に図書館は、商店街の活性化につながらないようなイメージがあるが、現在はいろいろな図書館があり、それぞれの特色を生かした賑わいのある図書館がある。黒部市でも、他にない魅力的な図書館が建設できればよいと考えている。また、新庁舎とこの跡地が近いことから、安全に歩いて回遊できるアクセス整備も必要と考える。

O委員長 人づくりは主に若い人が対象と考えがち。一方で高齢化社会の観点から生涯学習の充実等を言われたりする。しかしながら、歳とともに必要な人づくりもあると考えており、人づくりは子供だけが対象ではないと思っている。かつて庁舎跡地に尋常高等小学校があったとF委員が発言されたが、過去の学び舎の歴史を聞いて、よいイメージを持つことができた。今後、議論を進める中で具体的な意見がでてくると思う。一方、市庁舎周辺には老朽化した施設がいくつもある。これらを総合的に考え、公共施設の再編の考え方も踏まえた形で議論していくことになると思う。

OE委員 先程の発言を補足するが、私は、プロセスの段階で若者等を巻き込むのではなく、委員会の案が出た段階で市民を巻き込んでいけばよいという意味で発言した。

各委員から具体例等を伺っている中で、中心市街地の活性化というキーワードがでるが、現実的な話として、建物一つで中心市街地が活性化できるとは思わない。自分は、各施設や機能のコンビネーションでまちが活性化していくと思う。例えば、特異な例として佐賀県武雄市の図書館がある。武雄市の図書館は施設ひとつで市が活性化した。これは、自分にとっては衝撃的な例で、今までは公共施設で活性化ができないという自分の既成概念を払しょくした。このような特異な例もあり、黒部市でも活性化できる可能性があると思っている。

また、予算の話が出たが、市民の巻き込み方として、建物の建設が決まった段階で市民に募金を募るのもよいと思う。100円でも200円でも募金を募れば、自分もその建物に参画したという意識が生まれると思う。企業に対しても同様である。みんなで建てた建物ということで愛着が生まれると思う。具体的に何がよいかは、今は判断できないが、方向性としては、先ほど尋常高等小学校があったということを含めて、人が育つ場所であってほしいと思っている。

OA委員 いろんな意見が出ているが、人が集まらなければ施設を作っても意味がないと思う。F委員の発言は大変参考になった。また、E委員から発言のあった佐賀県武雄市の図書館は、民間会社を入れ工夫して運営していることは私も知っている。大変難しいと思うが、自分のイメージとしては、文化と人を集めることができる施設がよいと考えている。例えば、図書館の中に映画館を作ることが考えられると思う。今、県内で人が集まっているのは、婦中の商業施設の中にある映画館である。

休日、黒部市では、生地の魚の駅に人が集まるように、商業ベースが入ってこない人が集まらない。商店街に迷惑をかけない程度で提案したいが、文化を考えると複合的な多目的施設を提案したい。

O I 委員 施設だけを作ってもそこに人は集まらないと思う。富山市の図書館の場合は、ガラス工房や銀行が入ることによって、比較的遠方の方も利用して活性化されている。

現在、黒部市ではYKKによるパッシブタウンが進められている。今後、東京の本社から人が転居してくるが、そういうものを含めて考えていく必要がある。

公募委員の立場からあまり具体的な施設を言いたくはなかったが、図書館は、幼児から高齢者までの不特定多数の人が利用する。私は、富山市の図書館に30年間勤務していたが、人口の3分の1の約10万人がたえず登録し利用している。なかでも図書館から2キロ圏内の方がリピーターとしてよく利用される。また、もうひとつ図書館で大事なことは、魅力ある図書館を作れば遠方からも来館される。黒部市でも図書館をきちんと整備すれば、遠方からの利用者を見込める。

もう一つは、先ほど、人づくり・まちづくりの話をしたが、図書館の他に、人づくりのための大事な施設として公民館がある。公民館では、いろんな講座・講演をやっているが、図書館が公民館の近くにあれば、講演会等での疑問点等を図書館で調べていくことができる。また、公民館と図書館の共催で講演会等を行うことができ、効率的である。さらに、多目的ホールの必要性を言われたが、通常、図書館にも公民館にも、それぞれ会議室等のホールがある。公民館と図書館が併設されれば、ホールを両施設で共有して使うことができる。これらのことから複合施設として図書館と公民館が併設されれば、「人づくり・まちづくり」の中心的な施設になっていくと考えている。

だれでも自由に利用できる施設は図書館である。先程、武雄市の図書館の話があったが、学びの場として良いところを十分に取り込んで、活力ある図書館に結びつけることができればと思っている。

O B 委員 まちが人をつくるのか、人がまちをつくるのか、どちらが先かわからないが、施設だけでは、商店街の活性化につながらないと思う。施設を集積することで、人の集まる要因がいくつも出てくる。

具体的な施設としては、図書館と三日市公民館をベースにした複合施設すればと思う。黒部市には、様々な施設があるが、今後のことを考えれば、なるべく新規の土地購入を控えながら、そしてまた、庁舎跡地は1,300坪程度しかないので、今後駐車場の問題が必ず出てくると思う。この場合、三日市公民館の敷地を活用するなど、なるべく受益者負担のかからない形が必要と考える。富山市で通用しても黒部市では通用しないものもある。このため、現実的な施設をつくるべきではないかと考えている。

O D 委員 各委員は、図書館の思いが強いようだが、私も同様である。三日市の商店街、や中心市街地の活性化の話が出るが、昭和40年代と現在を比べると店舗数が3分の1に減っている。これをどう活性化できるかを商工会議所でも議論しているが、人が集う流れをどう商店街が利用につなげるかが一番大事なことだと思っている。今後、新市役所庁舎が旧三日市小学校跡地に完成し、現在の庁舎跡地に公共施設ができる。庁舎跡地に図書館や公民館ができれば、少なくとも年間10万人が集うまちができることになる。この10万人の方に商店街をどう利用いただくかを考えなければならない。駐車場問題もあるが、駐車場は、市役所の職員駐車場を活用することも考えられる。

公共交通については、バスが走らない中での公共交通は難しいと思っている。その中で、商店街として、どのように人を回遊させるかが大事であり、市役所へのアクセスは、メルシー側からだけでなく、商店街からのアクセスも考え、人が循環できる仕組みを考える必要がある。庁舎跡地の周辺整備

も含め、将来的なビジョンを踏まえながら三日市、黒部市のまちづくりを進めていくことが大事と考えている。

OG委員 今まで、いろんな意見が出ている。本来なら施設とそれを運営するソフトの面を話し合い、その中で効果を検討しないといけないと思うが、個人的には、図書館をうまく運営して集客しながら、もうひとつの施設、例えば文化的なことから映画館を併設させればよいと思う。数年前に黒部市で上映された「黒部の太陽」を観て感動した。映画を通じて黒部市民の自覚と愛着心が湧いた。このような施設ができれば、地域の小学生等に対する地域教育の一環として利用していただくことができる。文化を発信できる施設を持っている黒部市として、また、市として活用を通じて発信できる力をつけるのもありかと思う。運用の仕方によっては、そういう運用もできると思うので、個人的には、文化の面から映画館はよいと思う。

OJ委員 委員各位から図書館という意見をいただいた。図書館は、今の図書館と違った運営が行われる施設になると思っている。運営の工夫次第では、多くの人が集まる場所、学習の場、憩いの場になり得る施設であると思う。そういう点では、中心市街地に相応しい施設ではないかと思っている。

もうひとつ注意しなければいけない点としては、コラーレがあるが、コラーレは会議室が少ないため、シンポジウムなどを開催しにくいという欠点がある。この欠点を保管できる機能も考えていかなければならないと思っている。

O委員長 委員として発言する。皆さんの意見を聞き、今回の検討にあたってはイメージが大事と思った。これまで、コンセプトやビジョン、人づくり・まちづくり等、いろんな話があった。

今の若い人は、映画を観に富山市の大型店に併設の映画館に行く。これは、何か、ひとつのイメージを持っているからだと思う。また、魚津市は、夜になると黒部市の何倍もの人が集まる。若い人は、黒部市よりも魚津市にお酒を飲みに行く。これもある意味ではイメージだと思う。例えば大分県の湯布院は30数年前までは、何も無い温泉であったが、今では、映画祭や音楽祭を行う等の温泉地となり、多くの観光客が訪れている。湯布院は、「映画館がない場所で映画祭を始めた」というキャッチコピーで有名になっており、イメージは大変大事である。先程のF委員から「庁舎跡地には、学び舎の歴史があった。」との発言をいただいた。舟橋村は地鉄駅に図書館がつながっている。それは、日本一小さな村だが、誇りを持って図書館を運営している。私は、舟橋村のイメージは図書館が作っているように思える。黒部市でも図書館にプラスした何かイメージにつながる施設が大事ではないかと思う。これまでの図書館とは違う、たとえ小さくてもよいので、映画館があればよいと思う。そのかわりどこでもやらない映画の上映を行ったり、子供たちが映像で学べる、新しい学びの場所、そして高齢者がくつろげる場所。また、先ほど駐車場の話があったが、私は、駐車場はなくてもよいと思う。ヨーロッパの古い街には、駐車場がない。そして古い街並みを保存している。庁舎跡地が限られたスペースであることを考えると非常に難しい問題ではあるが、それを逆にとり駐車場がなくてもよいと思っている。商店街も歩いていけるエリアを作れる施設であればよいと思う。

O事務局 今日の主題はコンセプトということであったが、イメージを作るために、コンセプトと委員各自が持つビジョンは、表裏一体だと思った。今回、すべての委員から、各自の持っているイメージを発言し、委員各位の発言を踏まえ、コンセプトと同時進行で議論を進めることができ、非常に有意義な会議であった。今回の議論を含めて、ビジョン・コンセプトをはっきりさせたいうえで、次回の検討会から具体的な施設を検討していただければと思う。また、今日の各委員の発言から委員の根底には、図書館が大きなウエートを占めているとあらためて認識することができた。

○E委員 映画館は非常によいと思う。自分は東京に住んでいたとき、よく映画館に行った。本当によい映画と言われる、カンヌやベネチア等の出品作は、都会の小さな映画館でしか観ることができない。良い映画には、映画による学びがあるが、県内にはそのような映画を上映する映画館がない。これを観れる映画館が黒部市にできると人の流れができる。また、その近くに三日市の商店街があれば、そこでいろんなふれあいや、物が動くことが十分期待できると思う。

もつひとつは、公園がよいと思う。しかも単純な公園ではなく、図書館や映画館等もそうであるが、人気のある場所は、有名な建築家が関わっていることが多い。例えば、富山のガラス美術館は、「隈研吾」が携わっている。歌舞伎座の建築・設計を行った隈研吾が携わっているだけで、いろんな設計マニアが訪れる。また、公園でいえば、長野県に草間弥生が携わった公園がある。黒部市にもそういう文化の香り高い公園を作ることで、そこに子供づれの親が集まり、コミュニティが形成される。今は、公園の在り方が全国的に見直されているが、きれいな公園に芸術性の高い遊具やオブジェ等を設置し交流の拠点場所にすればよいと思う。とにかくだれに作らせるか重要で、それがイメージにつながる。武雄市の図書館は、蔦屋やスターバックスコーヒーがあり有名でなる。図書館は誰が作ったのか。図書館にどんな機能があるのか。そういうものをしっかりしていけないといけないと思う。

○I委員 施設に隣接した駐車場は必要だと思う。富山市のように巡回バス等が走る等すれば、初めから施設と離れた場所に駐車場を設けることができると思う。三日市の商店街は、駐車場所がないことからお客が離れていったのではないかと思う。そういう点からも駐車場は非常に大事ではないかと思う。仮に駐車場を設けないのであれば、いろんな利点を作り、活用することが大事だと思う。

○委員長 いずれ駐車場も議論していくことになると思う。事務局から今後の方向性を説明していただいたが、本日の意見をもう少し集約し、次回以降、公共施設の再編、面積、財源等を踏まえながら検討していくこととしたい。

(4) その他

次回（第3回）検討委員会開催日時・開催場所の内定

- ・日時：平成26年11月18日（火）午後1時30分から
- ・場所：黒部市民会館102会議室

6 閉 会（終了時間：15時10分）